

【活動報告】「松江市内の禅宗寺院の庭」視察

庭園文化研究分科会幹事 武田隆司

県内の仏教寺院には庭園を備えたものが多くあります。中でも禅宗寺院には優れた庭が見られる傾向があるようです。これまでも津和野の永明寺、益田の医光寺、平田の康國寺、広瀬の城安寺などを視察しましたが、今回は松江市内の禅宗寺院の庭を2か所視察しました。2か所とも住職に解説をしていただき、庭の縁起や維持管理などのご苦勞を知ることができました。

○視察日

令和3年5月15日（土）10時～14時

○視察場所

- ・円成寺（松江市栄町 792）
- ・慈恩寺（松江市東忌部町 1772）

○参加者

8名

1. 円成寺（臨濟宗妙心寺派）

松江の都市形成の基盤をなすまちづくりの偉業をなした初代城主である堀尾家の菩提寺。1635年に現在の地で春龍和尚により開山した。本堂の裏に裏山の斜面を活用した枯山水の書院庭園がある。この庭は春龍和尚が別荘として建てた臨江庵跡で、庭園内にある灯籠は、来待石による六地藏灯籠で、慶長9年（1604）と刻まれており、記念銘のある来待石の石灯籠の中では最古とされている。

庭園全景



六地藏灯籠（松江市文化財）



2. 慈恩寺庭園（臨濟宗妙心寺派）国指定史跡及び名勝

1800年頃円成寺より分派し、現在の本堂は1852年に落慶した。戦前に当時の完全和尚が地滑り地の境内に石垣を築き、参道に石造物を整備した。庭園は昭和38年に微山和尚が整備したもの。裏山の斜面を活用した池泉庭園で春はサツキ、秋はモミジなどの紅葉が楽しめる。

